



# 人々が感動するには自分が感動しなければ

今 月号のタイトルは、(株)東京ドーム代表取締役会長C E Oの北原義一さんのお言葉をお借りしたものです。

北原さんは、2023ワールド・アライアンス・フォーラム東京円卓会議のまとめのご挨拶で、この言葉をお使いになったそうです。

東京円卓会議は、原丈人さんが会長をなさっているアライアンス・フォーラム財団の主催したものです。

原丈人さんのお付き合いは今まで何回も書きましたが、北原さんとも、長くお付き合いさせていただいています。

僕は、この東京円卓会議には出ませんでした。同じ財団が主催するWHGC2023秋、というフォーラムにはゲスト講演で出ました。どっちも横文字のイベントで、間違えそうになります。

それはともかく、北原さんのおっしゃるには、東京ドームという会社は、離職率がもともと低い、また心の病で苦しむ人がもともと少ない会社だそうです。

つまり一言で言うと、ええ会社やねえ。東京ドームというところは。

こんな会社こそ、公益資本主義を目指しているのかもしれない。

笑顔が交差して  
楽しいオーラが出ている空間です

おさらいしますと、アメリカを主として横行する株主資本主義は、会社は株主のもので、利益は短期間に株主に分配するものである。

それに対して、原さんの唱える公益資本主義は、会社は事業を通じて、社会の役に立つモノや情報、サービスなどを提供するものである。

そして利益は、社中全体に対する分配の総和である、ということ。

付け加えますと、「社中」と言うのは、社員や顧客、仕入れ主、株主、地域社会、さらには地球が含まれるそうです。

要するに、会社は株主だけのものやない。関わってくれる人みんなのもの、ということでしょうか。

こういうことが重要視されると、東京ドームのような、社員が安心して安定する会社になるのかもしれない。

では、なぜ東京ドームの社員はええのかというと、北原さん曰く、ドームにいらっしゃるお客さんは、野球やコンサート、遊園地を楽しみに、笑顔でやってくる方ばかりです。社員はそ



●(株)アオキ取締役会長  
**青木 豊彦** (あおき・とよひこ)



大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年国立和歌山大学客員教授に就任。2016年大阪市立大学学長特別顧問に就任(現在は、大阪公立大学客員教授)。2020年国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事。

の笑顔に対して笑顔で応える。笑顔と笑顔が交差して、それこそ楽しいオーラが出ている空間です。

けっして、極端に給与水準が高いというわけでもありません。社員は、お客様の笑顔が見られるということに、生きがいと誇りをもって仕事に携わっている。それは、お金では買えない数値化できないものの尊さ、重要性を、無意識のうちに知っている会社や社員ではないでしょうか、ということでした。

**利益は結果であって目的化しない  
社会の役に立った結果が利益だ**

そんなお話で思い出しました。ウチが飛行機メーカーのボーイングの認定工場になったときのことを。

今年の秋、ボーイングの調査員だった日系二世のマイケル・ヤマシタさんが、アメリカに帰りました。一〇月には、ヤマシタさんの歓送会を開きました。ウチがボーイングの認定工場になったのは一九九七年です。もう二六年も前になりました。

ボーイングの調査を受けるに当たっては、ウチの者も、大手に負けるかいと誇りをもって技術を磨きました。その結果として認定を受けたのです。それが今の(株)アオキをささえているのは、間違いないと思いますわ。

社員一丸になったウチの工場を見て、ヤマシタさんは、「技術は当然のことながら、社員の目が輝いているから推した」と言ってくれました。この言葉を思い出すと、今でも涙ぐみませんなあ。

その後、ヤマシタさんとは、長いお付き合いでしたが、アメリカ

(出典 2023 ワールド・アライアンス・フォーラム東京円卓会議パンフレットより)

	株主資本主義	公益資本主義
会社の意味	株主の所有物 (利益を生むもの)	独立したコミュニティ (事業を通じて、社会の役に立つモノや情報、サービスなどを提供するもの)
経営の責任	株主にとっての企業価値の最大化	社中のために経済的および精神的な価値を創造すること
利益の意味	株主に分配するもの	社中全体に対する分配の総和(公益)
意思決定基準	短期間で効率的に利益を生むか否か (株主価値)	長期持続的な利益と社会貢献を両立できるか否か(買い手よし、売り手よし、世間よし)
コーポレート・ガバナンスの意味	株主を守る(企業不祥事防止と企業価値最大化の仕組みづくり等)	社中を守る(企業の社会貢献の促進、短期利益に惑わされない仕組みづくり等)

●株主資本主義と公益資本主義の対比

にお帰りなっても、お元気でいて欲しいもんです。おっと、また横道にそれてしまいました。東京ドームに戻りましょう。

北原さんによれば、東京ドームは、前身の後楽園スタジアムの設立から数えて、九〇年近くになります。

社内では次の東京ドームを作っていくかねばならないと、侃々諤々の議論をしているそうです。

ちなみに東京ドームの中期五か年計画は、「胸

がきゅんとなる球技場」というキャッチフレーズだとのこと。そして、イノベーションを起こすためには、人々が感動するには、自分が感動し自分もワクワクウキウキする仕事、そういった働き方を目指す必要があるとおっしゃっています。

利益は結果であって目的化しない。自分たちの関心があつて社会の役に立って、みんなが喜んで笑顔になってくれることをがんばる。その結果が利益だと、北原さんは結論付けています。これもええ話ですねえ。